

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスあぶり名東		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		2026年2月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		2026年2月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設内は段差のないバリアフリーせつけいであることはもちろん、どの位置からもスタッフの目が届く見通しのいい構造となっております。常時、ご利用者様の様子を把握できる環境を整えることで、事故を未然に防ぎ、安心安全を最優先とした支援体制を構築しています。	「動」と「静」を組み合わせた心身の成長支援隣接する猪子石原中央公園での外遊びと、整理整頓された室内での活動をバランスよく組み合わせています。公園では集団でのルールや社会性を学び、室内では落ち着いた環境で集中力を養うなど、立地を最大限に活かしたカリキュラム構成を意識しています。	バリアフリーで死角のない安全な環境を最大限に活かし、ご利用者様一人ひとりの行動特性をより詳細に分析(アセスメント)していきます。環境設定が整っているからこそできる、一歩踏み込んだ個別カリキュラムの提供により、ご利用者様の「できた!」という成功体験を積み重ね、自己肯定感を高める支援をさらに充実させます。
2	地震や水害に強い構造を採用し、いざという時の安全確保に万全を期しています。また、常時換気システムの導入や、壁面などの抗菌素材の採用により、目に見えない衛生面への配慮も徹底しており、ご利用者様が健康的に過ごせる空間づくりに注力しています。	バリアフリーで死角のない設計を活かし、スタッフが常に適切な距離感で寄り添えるよう配置を工夫しています。ご利用者様が「どこにいても誰かが見守ってくれている」という安心感を持てるようにすることで、新しい課題にも自信を持って挑戦できる心理的な土台作りを行っています。	隣接する公園での活動を単なる「外遊び」に留めず、地域の方々との挨拶や公共施設のルール遵守など、実社会に即した「社会適応訓練(SST)」の場としてより積極的に活用します。地域社会の一員としての意識を育むため、外部との交流機会を段階的に増やしていく計画です。
3	施設の目の前にある大きな公園で日常的に屋外活動ができるようになっています。開放的な場所でのびのびと身体を動かすことができ、室内の静的な活動と公園での動的な活動をバランスよく提供することができます。	災害に強いハード面に甘んじることなく、毎月の避難訓練やハザードマップの確認を欠かしません。また、抗菌素材の壁や換気システムに加え、ご利用者様が自然に手洗い等を習慣化できるよう、視覚的な支援を用いた衛生指導を日常的に行っています。	安心・安全な施設内での様子を、これまで以上にきめ細やかに保護者様や学校へフィードバックします。タブレット端末等のICT活用も視野に入れ、事業所・家庭・学校が共通の目標を持って一貫した支援を行えるよう、情報の共有スピードと質の向上に努めてまいります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域住民の方や、他団体との交流機会が不足している。	安全と交流の両立に向けた検討の不足。	地域で行える活動の参加。
2	保護者同士が悩みの情報を共有できる「横のつながり」の場の提供ができていない。	地域企業や他団体との交流が不十分である。 他の地域や団体との協力関係が構築されていない。	保護者同士の交流・繋がり促進については定期的な保護者交流イベントや親睦会を企画・運営する。 保護者同士のコミュニケーションを促進するよるサポート体制を整える。
3	客観的な評価を行っていないため、第三者からの評価を行い、改善につなげる必要がある。		